

【審査結果の要旨】

本研究は、京都府北部の丹後・丹波地方で、高齢化・過疎化がみられる地域を対象に、生業の合間や生業に付随しておこなわれる自然とかかわる活動がその担い手の生活や、当事者が属する地域社会にとってどのような意味をもつのかを検討したものである。申請者はこの活動を「マイナー・サブシステム活動」と捉え、丹念な実態調査をもとに、この活動が地域社会を構成する他者との関係性のなかで展開されていること、また、そこに生活の豊かさにつながる意義があることを論じた。

第1章では、調査手法の参考として民俗学で蓄積されてきた自然とかかわる研究を概観するとともに、マイナー・サブシステム活動に着目した既往研究を検討した。そのうえで、本研究の特徴は、マイナー・サブシステム活動の意義を、担い手である個人および集団の生活という視点から考察することにあるとの研究の位置づけをおこなった。

第2章では、福知山市山間部で害獣駆除をおこなう兼業猟師への聞き取り調査をもとに、現代生活における害獣駆除の意味を検討した。駆除の実態を記録するとともに、駆除猟に対する意識を探るため、対話形式の聞き取りをおこない、道具や罠の製作、また肉や骨の利用等に、「楽しみ」という猟師の精神性にかかわる要素が関与していること、害獣駆除は地域の生活を守るために必要な活動と位置づけられていること等を把握し、そこに義務感や地域貢献への意欲という動機が存在することを明らかにした。

第3章では、京丹後市丹後町袖志地区を対象に海辺の生活調査をおこなった。ここでは、磯での採捕活動に「おかずとり」という言葉が用いられることに着目し、「おかずとり」を意味する採捕の伝承を明らかにした。また、採捕には資格や規定が存在し、資源の保持や安全性の確保への配慮があること、地域社会の規範が反映されていること、活動自体が採捕者同士のコミュニケーションの場ともなって共同体の意識が育まれていることを指摘し、これらを、地域生活における「おかずとり」の意味や活動の意義として示した。

第4章では、宮津市由良地区に居住する高齢男性を対象に、その行動観察と聞き取り調査をおこない、自然とかかわる自立自存的な生活の特徴を明らかにした。調査者が対象者と生活を共にしつつ、その活動を農作業、調理、季節行動、漁・猟、自作道具、その他に分類して、そこにみられる工夫を指摘した。また生活調査をもとに、対象者の行動理念を抽出し、「生活の基盤となる7要素」や「行動の5要素」を挙げ、それらの根底にある「他者とかかわり」「創造する力／発想と技術」「先を見据えた行動」が生活を方向付けていることを、概念図を作成して提示した。そのうえで、対象者は自らで生活全体を設計し、自然とかかわる自立自存的な生き方を実践していること、その生活は他者との関係性によって規定される精神性と深くかかわっていることを論じた。

第5章では、それぞれの地域で観察・調査したマイナー・サブシステム活動に共

通する特徴を抽出した。1つは、そこに「楽しみ」や「共同体意識」という共通の動機や精神性を見いだせることで、それらはゲーム性、道具づくりにおける創意工夫、成果物の分配、他者との交流、活動を担う主体の地域特有の自然への親しみや他者への信頼と結びついていると論じた。また、害獣駆除は公益活動であり、「おかずとり」は村人全員が一定の規則のもとでかかわる活動と位置付けられ、由良地区の高齢者は利他性を意識した行動原理を内面化して自らの暮らしを整えていると指摘し、これらの活動には、地域における共同体としての意識や規範が反映されていると論じた。さらに、地域特有の自然とかかわる生活条件や資源を利用するなかで、伝統的な技法や習慣が継承されていることにも言及した。

本論文は、生業の合間や生業に付随しておこなわれる自然とかかわる活動が、それぞれの地域でこの活動を担う主体の精神性と深くかかわり、当事者に「楽しみ」や「喜び」をもたらしていること、また交流できる他者の存在や共同体意識の存続が重要な役割を果たしていることを示した。さらに、この活動が自然環境の適切な管理、地域社会における共同体意識の醸成、生活者としての主体的な生き方に通じていることを明らかにした。これらは、現代社会における生活の豊かさや共同体の持続性を考えるうえで示唆に富む有意義な知見である。

以上より、本論文は博士論文の要件を満たす価値あるものと判断した。

6 最終試験の結果の要旨

本論文の内容は公開発表会（2017年2月17日（金） 午後2時15分～3時30分、ひと・まち交流館 京都地下1階ワークショップルーム）で発表された。口頭発表の後、質疑応答がおこなわれた。質問の内容は、調査結果として示された表中の用語の意味や、表記法に関するもの、聞き取り調査によって得られた発話内容の分析手法に関するもの、研究成果の今後の活用方法に関するものなど、多岐にわたったが、それぞれに適切に回答した。最終試験の結果については、審査員全員一致で合格とした。

以上